



あわてなさんな

校長 筒井 啓介

親子の関わり方に限りませんが、人間同士の関係は一瞬一瞬が大切だと思う時があります。例えば、子どもが親に褒めてもらおうと思って「数学のテストで80点とったよ」と答案用紙を見せたとします。しかし、「ここができていたら90点だったのに、残念だったね」とか、励まして欲しい時に「テニスの大会一回戦で負けちゃった」と言ったのに、「普段の練習が足りないのよ」と言われることはよくあることではないでしょうか？褒めて欲しい、慰めて欲しいと思って親の側に行ったのに、全く逆の対応をされてしまった。このようなことが、少しずつ積み重なることで、子どもの心が閉ざされてしまうことがあります。

「どうせ私の事なんて分かってこないし」という言葉は「もっと私の事を分かって欲しい」という気持ちの裏返しだと思います。大人も子供も忙しい日々ですが、**子どもの心を感じ取り、共に喜んだり悲しんだり、子どもを受け止める心の余裕が必要だ**と思います。

ここで、谷川俊太郎さんの詩「あわてなさんな」を紹介します。

「あわてなさんな」

谷川俊太郎

花をあげようと父親は云う  
種子が欲しいんだと息子は呟く  
翼をあげるわと母親は云う  
空が要るんだと息子は目を伏せる

道を覚えろと父親が云う  
地図は要らないと息子がいなす  
夢を見ないと母親が云う  
目をさませよと息子がみつく

不幸にしないでと母親は泣く  
どうする気だと父親が叫ぶ  
あわてなさんなと息子は笑う  
父親の若い頃そっくりの笑顔で

大人が子供を見るとき、どうしても大人目線で見えてしまいます。そのため、失敗せずに最短距離で成功をつかめるように、先回りをしてあれこれ手を出してしまいます。しかし子供は、花（成功）をもらうより種子（可能性）をもらったほうが、嬉しいのではないのでしょうか。

種子を手間暇かけて世話をし、自らの手で芽吹かせ、花を咲かせる喜びを知る。谷川俊太郎さんの詩、「あわてなさんな」は、「子供の可能性を信じて成長を待つ大切さ」を教えてくれているような気がします。**成長に失敗は付きものです。時には、じっと我慢して見守ることも必要だ**と思います。

## ■体育大会を開催しました（その1）



全校生徒による準備体操



全学年混合サーキットリレー



全学年混合サーキットリレー



玉入れ



玉入れ

6月4日(木)に体育大会を開催しました。「超点」をスローガンに各自の力を最大限に出し切り、クラス・ブロックの仲間とともに競技に臨みました。会場にはたくさんの保護者・地域の皆さんが応援に来てくださいました。その様子を紹介します。(紙面の都合上、複数回に分けて紹介させていただきます。)